愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム

目次

1)　理念・使命・特性
2)　募集専攻医数
3)　専門知識・専門技能
4)　専門知識・専門技能の習得計画
5)　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス
6)　リサーチマインドの養成計画
7)　学術活動に関する研修計画
8)　コア・コンピテンシーの研修計画
9)　地域医療における施設群の役割
10)　地域医療に関する研修計画
11)　内科専攻医研修モデル
12)　専攻医の評価時期と方法
13)　専門研修管理委員会の運営計画
14)　プログラムとしての指導者研修の計画
15)　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
16)　内科専門研修プログラムの改善方法
17)　専攻医の募集および採用の方法
18)　内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

1. 理念・使命・特性

理念

愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムは，大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院を基幹施設として，大阪市および兵庫県，奈良県にある連携施設・特別連携施設での内科専門研修を通して

1）内科全般の診療を通して，専門的な知識・技術・態度を習得させる

2）地域の実情に合わせた実践的な医療が行える内科専門医を育成する

3）患者さんに信頼される内科医師としてのプロフェッショナリズムを習得させる

4）指導医とともに症例を深く掘り下げ，科学的に考察を加えリサーチマインドの素養を習得させる

以上を実践する事を理念とします.

使命

1）三島医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，高い倫理観をもち，最新の標準的医療を実践し，医療安全を常に心がけ，臓器別専門性に偏ることなく広い視野を持って高度な内科診療を提供できる医師を養成します.

2）研修終了後もチーム医療を実践して地域医療に貢献できる医師を養成します.

特性

１）本プログラムは，大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院を基幹施設として，大阪市および兵庫県，奈良県にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行う事で超高齢化を迎えた日本の医療事情を理解して，地域の実情に合わせた実践的な医療が行えるように計画されています．研修期間は基幹施設 2 年＋連携施設・特別連携施設 1 年の 3 年間になります.

２）本プログラムは，基本的に主担当医として患者さんを入院から退院まで，場合によっては再入院も含めて経時的に診断・治療を行う事で，患者さんの医学的な状態・社会的背景・療養環境調整を包括する医療を実践できます．基幹施設である愛仁会高槻病院は，三島医療圏の中心的な急性期病院であり，ほぼすべての診療科を有しており，加えて年間救急搬送数が 6,000 件を超える救急センターを有している事から豊富なコモンディジーズの経験ができます．また，それぞれの専門科の指導医と診療内容が充実しているので 3 年間の研修後の Subspecialty 研修への移行が円滑に行えます.

３）本プログラムは，連携施設・特別連携施設として高槻病院と違う特色のある施設がそろっています．総合内科に力を入れている施設（明石医療センター）や在宅医療に力を入れている施設（愛仁会しんあいクリニック）を有しており，これらの施設でのローテート研修を選択する事によって地域の病病連携や在宅訪問診療施設との病診連携が経験できます.

４）基幹施設である愛仁会高槻病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして専攻医 2 年修了時点で，指導医による指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できます．

５）基幹施設である愛仁会高槻病院での 2 年と専門研修施設群での 1 年（専攻医 3 年修了時）で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．可能な限り「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします．

専門研修後の成果

本プログラムの使命にも記載したように，内科専門医の使命は高い倫理観をもち，最新の標準的医療を実践し，医療安全を常に心がけ，臓器別専門性に偏ることなく広い視野を持って高度な内科診療を提供できる事であります．

本プログラムを終了したのちは，地域のかかりつけ医，内科系救急の専門医，病院での総合内科の専門医，総合内科的視点をもった臓器別専門医，大学での基礎研究・臨床研究を行うアカデミックポジションなど様々な進路へ進むために十分な素養を得ることができます．進路の相談にも応じます．もちろん，特定の大学への入局や大学院進学を前提にする事はありません．

本プログラムは研修を終えた医師の多様な希望進路実現のために指導医は一丸となって支援を行います．

2. 募集専攻医数

下記 1) ～ 7) により，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 3 名とします．

１） 愛仁会高槻病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 15 名で 1 学年 5－6 名の実績があります．

２）剖検体数は 2024 年 6 体，2023 年度 2 体，2022 年度 4 体，2021 年度 4 体，2020 年度 9 体です．

表．愛仁会高槻病院診療科別診療実績

2024年度実績	入院患者実数（人／年）	外来延患者数（延べ人数／年）
消化器内科	1,309	16,862
循環器内科	1,011	11,759
糖尿病・内分泌内科	238	13,010
腎臓内科	77	9,382
呼吸器内科	865	13,055
脳神経内科	226	6,774
血液内科	4	21
総合内科	1,356	7,316
不整脈内科	409	7,699
合計	5,495	85,878

３）腎臓，血液領域の入院患者数は少なめですが，外来患者診療を含めると１学年６名に対して十分な症例が経験可能です．膠原病内科の入院診療科はありませんが，外来にて膠原病の診察をし，入院必要症例は各科で分担しております．総合内科を 2017 年４月から立ち上げ，米国式の研修医教育を導入しています．外来患者診療を含めると１学年６名に対して十分な症例が経験可能です．救急センターは入院ベッドを持っていませんが，指導医は５名おり（救急科専門医４名・循環器内科専門医１名），十分な症例が経験可能です．特に救急搬送数は年間 6000 件を超えています．

４）13 領域の専門医は血液内科を除き、１名以上在籍しています（非常勤を含む）．

５）１学年６名までの専攻医であれば，専攻医２年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です．

６）専攻医 2-3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，急性期病院と療養型病院があります．急性期病院は①愛仁会千船病院・・糖尿病，腎臓病に特色があります．②愛仁会明石医療センター・・循環器病・呼吸器疾患・総合内科診療に特色があります．③神戸大学医学部附属病院・・高度急性期医療・がん診療を行っております．④高槻赤十字病院・・血液疾患・消化器疾患に特色があります．⑤奈良県総合医療センター・・総合内科，救急・集中治療分野に特色があります．⑥神戸医療センター・・呼吸器疾患を主に神戸の地域医療も経験できる，などの施設があります．療養型病院は愛仁会しんあいクリニックがあり高槻地区にある地域密着型の病院で在宅医療を実践しています．バラエティに富む連携施設群を持つ本プログラムは専攻医のさまざま希望・将来像に対応する事が可能です．

７）本プログラムでは豊富な症例が経験できるため，専攻医３年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患，160 症例以上の診療経験は十分に達成可能です．

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識の範囲は「総合内科」「消化器」「循環器」「内分泌」「代謝」「腎臓」「血液」「神経」「アレルギー」「膠原病および類縁疾患」「感染症」「救急」で構成されます．「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」「病態生理」「身体診察」「専門的検査」「治療」「疾患」などを目標（到達レベル）とします．

2) 専門技能（「技術・技能評価手帳」参照）は内科領域の「技能」は幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けされた医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針をさします．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これら，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません．

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標（別表 1「愛仁会高槻病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照） 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うために，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）1 年目:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下すべての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します.

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）2 年目:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．2 年目は連携施設で研修を行いますが，基幹病院の研修で不足した分野の症例を中心に連携施設で確実に経験できるようにします.

・2 年目終了の段階で，専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します.

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）3 年目:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群すべてを経験し，計 200 症例以上を経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の

場合は，その年度の受理を認められないことに留意します.

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を習得しているかを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

愛仁会高槻病院内科施設群専門研修では「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能の修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが修得が不十分な場合，修得できるまでの研修期間を 1 年単位で延長します．一方で，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2） 臨床現場での学習，内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①-⑥参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・ 技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．またプレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.

③ 総合内科外来（初診外来）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます.

④ 救命救急センターにて，指導医や初期研修医とともに平日の外来を担当して内科領域の救急診療の経験を積みます.

⑤ 内科当直医（2 名制）として病棟急変などの経験を積みます.

⑥ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査・治療を担当します.

3） 臨床現場を離れた学習

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎月１回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績　医療倫理研修１回，医療安全研修２回，感染防御研修２回）

③ CPC（基幹施設 2024 年度実績７回）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2024 年度実績：愛仁会消化器内科カンファレンス２回）

⑤ 地域参加型の研修会（高槻病院生活習慣病研究会，在宅医療症例検討会，高槻市内科研修会，高槻市歯科医師会合同口腔ケア研修会，高槻病院周産期センター研修会，高槻地区認知症研修会など）

⑥ JMECC 受講（2024 年度実績１回）

※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに１回受講します．

⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会 /JMECC 指導者講習会

など

4） 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを ・・・A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを・・・A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者 の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判 断根拠を理解できる）に分類しました．

さらに，症例に関する到達レベルを・・・A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している：実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し蓄積するシステム

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下をＷｅｂベースで日時を含めて記録します．

・ 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．

・専攻医による逆評価を入力して記録します．

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価

ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理されるまでシステム上で行います.

・ 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載しました．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である愛仁会高槻病院臨床研修センターが把握し，定期的にE-mailなどで専攻医に周知し，出席を促します.

6. リサーチマインドの養成計画

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿 勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.

② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence based medicine）.

③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.

④ 診断や治療のevidenceの構築・病態の理解につながる研究を行う.

⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します.

併せて，以下の項目を通じて内科専攻医としての教育活動を行います.

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.

② 後輩専攻医の指導を行う.

③ メディカルスタッフを尊重し指導を行う.

7. 学術活動に関する研修計画

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，以下の項目を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）.
日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPCおよび内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します.

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.

④ 内科学に通じる基礎研究を行います.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います．なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランス

を持った研修を推奨します.

8. コア・コンピテンシーの研修計画

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・ コンピテンシーは倫理観・社会性です．愛仁会高槻病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である愛仁会高槻病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.
内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

9. 地域医療における施設群の役割

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府三島医療圏，近隣医療圏および兵庫県内の医療機関から構成されています.

愛仁会高槻病院は，大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.
連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，急性期病院および地域医療密着型病院で構成しています．他地域の急性期病院では，その施設の得意とする高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．（愛仁会千船病院：糖尿病・腎臓病に特色あり，愛仁会明石医療センター：循環器病・呼吸器疾患・総合診療に特色あり，神戸大学医学附属病院：高度急性期病院，高槻赤十字病院：白血病などの血液疾患・消化器内科に特色があり，奈良県総合医療センター：総合内科，救急・集中治療分野に特色があり，神戸医療センター：呼吸器疾患を主に神戸の地域医療も経験可能，甲南医療センター：内科医にとって

必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験可能，などの施設があります）地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．最も距離が離れている奈良県総合医療センターは奈良市にありますが，愛仁会高槻病院から電車を利用して，2 時間程度の移動時間で，車だと 1 時間で到着でき，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです． 特別連携施設である愛仁会しんあいクリニックでの研修は愛仁会高槻病院プログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います．

10. 地域医療に関する研修計画

愛仁会高槻病院内科施設群専門研修では，主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．

愛仁会高槻病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次急性期病院や地域療養型病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

11. 内科専攻医研修（モデル）

Subspecialty 重視コースの例

	1年目						2年目				3年目				4年目	5年目
															・内科専門医試験	・Subspecialty専門医試験
○Subspecialty重視コース																
	内科研修1年目						内科研修2年目（高槻病院以外の施設）				内科研修3年目（Subspecialty研修1年目）				Subspecialty研修2-3年目	
	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月		
	将来の専攻希望科	ローテートA	ローテートB	ローテートC	ローテートD	ローテートE	連携病院A	連携病院B	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	将来の専攻希望科				将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ	
例1	循環器内科	血液内科	呼吸器内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	消化器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会明石医療センター（循環器内科含む）or 神戸医療センター		循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科専門医取得へ研修継続	
例2	呼吸器内科	消化器内科	糖尿病内分泌内科	神経内科	血液内科	腎臓内科	愛仁会明石医療センター（呼吸器内科含む）		愛仁会井上病院	愛仁会しんあいクリニック	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科専門医取得へ研修継続	
例3	血液内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	呼吸器内科	循環器内科	神経内科	高槻赤十字病院（血液内科・消化器内科）		愛仁会千船病院	愛仁会井上病院	血液内科	血液内科	血液内科	血液内科	血液内科専門医取得へ研修継続	
例4	消化器内科	腎臓内科	神経内科	循環器内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会千船病院 or 奈良県総合医療センター		消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科専門医取得へ研修継続	

高槻病院ローテート：糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・神経内科・血液内科・腎臓内科・総合内科 から選択できます。
院外連携施設：愛仁会千船病院・愛仁会明石医療センター・高槻赤十字病院・愛仁会しんあいクリニック（高槻）・愛仁会井上病院・神戸大学医学部附属病院・奈良県総合医療センター・神戸医療センター・甲南医療センター・から選択できます。
総合内科・救急・アレルギーは症例が豊富で各診療科のローテート中に経験できます。膠原病も各診療科のローテート中あるいは膠原病外来の症例を担当して経験できます。

総合内科重視コースの例

	1年目						2年目					3年目			4年目	5年目	6年目	
															・内科専門医試験			Subspecialty 専門医試験
○総合内科重視コース																		
	内科研修1年目						内科研修2年目（高槻病院以外の施設）					内科研修3年目			Subspecialty研修（1-3年目）			
	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月				
基本	ローテートA	ローテートB	ローテートC	ローテートD	ローテートE	ローテートF	愛仁会明石医療センター総合内科		愛仁会井上病院	愛仁会しんあいクリニック	ローテートG	ローテートH	ローテートI	ローテートJ	将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ			
例	総合内科			愛仁会明石医療センター総合内科			愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	血液内科	脳神経内科	総合内科				将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ			
例	腎臓内科	循環器内科	血液内科	糖尿病内分泌内科	消化器内科	呼吸器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会明石医療センター総合内科		血液内科	脳神経内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ			

高槻病院ローテート：糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科・血液内科・腎臓内科・総合内科 から選択できます。
院外連携施設：愛仁会千船病院・愛仁会明石医療センター・高槻赤十字病院・愛仁会しんあいクリニック（高槻）・神戸大学医学部附属病院・奈良県総合医療センター・神戸医療センター・甲南医療センター・淀川キリスト教病院・宝塚市立病院・市立加西病院・愛仁会井上病院から選択できます。
総合内科・救急・アレルギーは症例が豊富で各診療科のローテート中に経験できます。膠原病も各診療科のローテート中あるいは膠原病外来の症例を担当して経験できます。

原則的に基幹施設である愛仁会高槻病院内科で 1 年目の専門研修（専攻医）を行います.
専攻医 2 年目の春に，専攻医の研修達成度，希望・将来像，およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，関連施設での 1 年間の研修を調整します.
専門研修（専攻医）3 年目は愛仁会高槻病院へ戻り将来希望する Subspecialty 中心に内科研修を継続します.

12.　専攻医の評価時期と方法

(1) 愛仁会高槻病院臨床研修センター（2016年度設置）の役割

- 愛仁会高槻病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います.
- 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
- 研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また， 各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- プログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 年 2 回，専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って改善を促します.
- 愛仁会高槻病院臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を年 2 回行います．担当指導医, Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから接点の多い職員を指名して評価してもらいます．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．（他職種はシステムにアクセスしません）その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
- 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに愛仁会高槻病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準

1） 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ｉ)～ vi) の修了を確認します.

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70 疾患群を経験し, 計200 症例以上（外来症例は20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録が済んでいる事

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）されている事

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表がある事

iv）JMECC 受講済である事

v）プログラムで定める講習会受講済である事

vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性が認められている事

2） 愛仁会高槻病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に愛仁会高槻病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「愛仁会高槻病院内科専攻医研修マニュアル」と「愛仁会高槻病院内科専門研修指導医マニュアル」と別途示します.

13.　専門研修管理委員会の運営計画

愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

内科専門研修プログラム管理委員会は,統括責任者（総合内科専門医かつ指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます．（P.34 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．愛仁会高槻病院内科専門研修管理委員会の事務局を愛仁会高槻病院臨床研修センター（2016 年度設置）におきます.

ii）愛仁会高槻病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する愛仁会高槻病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，愛仁会高槻病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，
e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績， b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，
c)今年度の専攻医数，d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，
e) 抄読会, f)机, g)図書館, h)文献検索システム, i)医療安全･感染対策･医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数など

14.　プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します．厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います.

15.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．専門研修（専攻医）1 年目，3 年目は基幹施設である愛仁会高槻病院の就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき就業します．（愛仁会高槻病院内科専門研修施設群」参照）

基幹施設である愛仁会高槻病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- 愛仁会高槻病院常勤医師として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科医師）があります.
- ハラスメント委員会が管理科に整備されています.
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
- 敷地に隣接して院内保育所があり，利用可能です．専門研修施設群の各研修施設の状況については，「愛仁会高槻病院内科専門施設群」を参照ください．また総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが，そこには労働時間，当直回数，給与など労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16.　内科専門研修プログラムの改善方法

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるため、専門研修施設の内科専門研修委員会，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医，施設の内科研修委員会，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムを評価します.

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

愛仁会高槻病院臨床研修センターと愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会は，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に必要に応じて愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムの改良を行います．愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専攻医の募集および採用の方法

本プログラム管理委員会は，毎年６月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，愛仁会高槻病院臨床研修センターの website の愛仁会高槻病院医師募集要項（愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，高槻病院所属の愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会メンバーにおいて協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します.

（ 問い合わせ先 ）愛仁会高槻病院　臨床研修センター

E-mail：t.kensyu@ajk.takatsuki-hp.or.jp

ＨＰ： https://takatsuki.aijinkai.or.jp/index.html

愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います.

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに愛仁会高槻病院

内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって研修実績に加算します．

留学期間は原則として研修期間として認めません．

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年+連携・特別連携施設 1 年）

図１：　愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム（概念図）

Subspecialty 重視コース

Subspecialty重視コースの例

○Subspecialty重視コース

1年目　2年目　3年目　4年目　5年目

・内科専門医試験　・Subspecialty専門医試験

連携施設での研修　病歴提出　筆記試験

内科研修1年目　内科研修2年目（高槻病院以外の施設）　内科研修3年目(Subspecialty研修1年目)　Subspecialty研修2-3年目

	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	
	将来の専攻希望科	ローテートA	ローテートB	ローテートC	ローテートD	ローテートE	連携病院A	連携病院B	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	将来の専攻希望科				将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ
例1	循環器内科	血液内科	呼吸器内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	消化器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会明石医療センター（循環器内科含む）or 神戸医療センター		循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科	循環器内科専門医取得へ研修継続
例2	呼吸器内科	消化器内科	糖尿病内分泌内科	神経内科	血液内科	腎臓内科	愛仁会明石医療センター（呼吸器内科含む）		愛仁会井上病院	愛仁会しんあいクリニック	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	呼吸器内科専門医取得へ研修継続
例3	血液内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	呼吸器内科	循環器内科	神経内科	高槻赤十字病院（血液内科・消化器内科）		愛仁会千船病院	愛仁会井上病院	血液内科	血液内科	血液内科	血液内科	血液内科専門医取得へ研修継続
例4	消化器内科	腎臓内科	神経内科	循環器内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会千船病院 or 奈良県総合医療センター		消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科	消化器内科専門医取得へ研修継続

高槻病院ローテート：糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・神経内科・血液内科・腎臓内科・総合内科 から選択できます。
院外連携施設：愛仁会千船病院・愛仁会明石医療センター・高槻赤十字病院・愛仁会しんあいクリニック(高槻)・愛仁会井上病院・神戸大学医学部附属病院・奈良県総合医療センター・神戸医療センター・
甲南医療センター・から選択できます。
総合内科・救急・アレルギーは症例が豊富で各診療科のローテート中に経験できます。膠原病も各診療科のローテート中あるいは膠原病外来の症例を担当して経験できます。

総合内科重視コース

総合内科重視コースの例

○総合内科重視コース

1年目　2年目　3年目　4年目　5年目　6年目

・内科専門医試験　Subspecialty専門医試験

連携施設での研修　病歴提出　筆記試験

内科研修1年目　内科研修2年目（高槻病院以外の施設）　内科研修3年目　Subspecialty研修(1-3年目)

	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	2か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	
基本	ローテートA	ローテートB	ローテートC	ローテートD	ローテートE	ローテートF	愛仁会明石医療センター総合内科		愛仁会井上病院	愛仁会しんあいクリニック	ローテートG	ローテートH	ローテートI	ローテートJ	将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ
例	総合内科			愛仁会明石医療センター総合内科			愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	血液内科	脳神経内科	総合内科				将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ
例	腎臓内科	循環器内科	血液内科	糖尿病内分泌内科	消化器内科	呼吸器内科	愛仁会しんあいクリニック	愛仁会井上病院	愛仁会明石医療センター総合内科		血液内科	脳神経内科	糖尿病内分泌内科	呼吸器内科	将来の専攻希望科のSubspecialty研修へ

高槻病院ローテート：糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科・血液内科・腎臓内科・総合内科 から選択できます。
院外連携施設：愛仁会千船病院・愛仁会明石医療センター・高槻赤十字病院・愛仁会しんあいクリニック(高槻)・神戸大学医学部附属病院・奈良県総合医療センター・
神戸医療センター・甲南医療センター・淀川キリスト教病院・宝塚市立病院・市立加西病院・愛仁会井上病院から選択できます。
総合内科・救急・アレルギーは症例が豊富で各診療科のローテート中に経験できます。膠原病も各診療科のローテート中あるいは膠原病外来の症例を担当して経験できます。

愛仁会高槻病院内科専門研修施設群研修施設

表 1.　各研修施設の概要（2025 年 4 月現在）

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科剖検数
基幹施設	愛仁会 高槻病院	477	186	7	15	13	2
連携施設	愛仁会 千船病院	308	80	8	11	9	2
連携施設	愛仁会 明石医療センター	382	215	6	12	20	5
連携施設	神戸大学医学部 附属病院	934	268	11	100	110	14
連携施設	高槻赤十字病院	335	200	6	9	8	6
連携施設	奈良県総合 医療センター	490	192	10	25	22	9
連携施設	神戸医療センター	304	138	9	4	13	2
連携施設	甲南医療センター	461	305	8	28	25	6
連携施設	宝塚市立病院	436	160	9	19	20	3
連携施設	市立加西病院	199	70	8	5	5	1
連携施設	淀川キリスト教 病院	581	265	11	27	34	8
連携施設	神戸赤十字病院	310	128	7	19	19	7
連携施設	はりま姫路総合 医療センター	736	306	11	46	38	2
連携施設	北播磨総合 医療センター	450	150	9	29	29	3
連携施設	淡路医療センター	402	136	6	16	15	11
連携施設	兵庫県立 がんセンター	360	149	5	23	19	0
特別 連携施設	愛仁会 しんあいクリニック	0		1	0	0	0
特別 連携病院	井上病院	127	127	6	12	9	0
研修施設合計		7292	3,075	138	400	408	81

表 2.　各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
愛仁会 高槻病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
愛仁会 千船病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
愛仁会 明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
神戸大学医学部 附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高槻赤十字病院	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	○	○
奈良県総合医療 センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
宝塚市立病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○
市立加西病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	○	○
淀川キリスト教 病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸 赤十字病院	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△	○
兵庫県立 はりま姫路 総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北播磨総合 医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
淡路医療 センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立 がんセンター	○	○	△	△	×	×	○	○	×	△	×	×	×
愛仁会しんあい クリニック	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
井上病院	○	△	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○	△

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階(○，△，×)に評価しました.

〈 ○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない 〉

専門研修施設群の構成要件

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．愛仁会高槻病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府および兵庫県・奈良県内の医療機関から構成されています．愛仁会高槻病院は，大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します.

また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期病院（愛仁会千船病院：糖尿病・腎臓病に特色あり，愛仁会明石医療センター：循環器病・呼吸器疾患・総合診療に特色あり，神戸大学医学部附属病院：高度急性期病院，高槻赤十字病院：血液疾患・消化器疾患に特色あり，奈良県総合医療センター：総合内科，救急・集中治療分野に特色があり，神戸医療センター：呼吸器疾患を主に神戸の地域医療も経験可能，など），療養型施設（愛仁会しんあいクリニック：地域密着型で在宅医療を実践，など）で構成しています.

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 1年目の 12 月に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基にして 2 年目の研修施設を調整し決定します.
- 専攻医 2 年目の 1 年間は主として連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）.
  研修到達度によっては 3 年目を主として Subspecialty 研修に充てる事が可能です.

専門研修施設群の地理的範囲

大阪府三島医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています．最も距離が離れている奈良県総合医療センターは奈良市にありますが，愛仁会高槻病院から電車を利用して，2 時間程度の移動時間で，車だと 1 時間で到着でき，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

1）専門研修基幹施設

愛仁会高槻病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・愛仁会高槻病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科医師担当）があります. ・ハラスメント委員会が管理科に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・病院に隣接して院内保育所があり利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています. ・愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者ともに総合内科専門医かつ指導医：2016 年度設置）　が連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります. ・愛仁会高槻病院内において研修する専攻医の研修を管理する愛仁会高槻病院内科専門研修委員会は 2016 年度に設置され，愛仁会高槻病院臨床研修センター（全診療科）を中心に活動しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に愛仁会高槻病院臨床研修センター（2016 年度設置）が対応します. ・特別連携施設（愛仁会しんあいクリニック・井上病院）の専門研修では，愛仁会高槻病院の指導医が面談・カンファレンスなどにより，その施設での研修指導管理を行います.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（23 年度 2 件、22 年度 4 件、21 年度 4 件、20 年度 9 件、19 年度 6 件、18 年度 20 体、17 年度 13 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，本審査を開催（2019 年度実績 2 回、2020 年度実績 1 回、2021 年度実績 1 回、2022 年度実績 0 回、2023 年度実績 0 回、2024 年度実績 0 回）しています.また、定期的に迅速審査を開催（2019 年度 12 回、2020 年度 12 回、2021 年度 12 回、2022 年度 12 回、2023 年度 12 回、2024 年度 12 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	船田　泰弘 【内科専攻医へのメッセージ】 愛仁会高槻病院内科専門研修プログラムは、大阪府三島医療圏の中心的な急性期病院である愛仁会高槻病院で豊富なコモンディジーズ・救急症例を中心に研修します。連携施設が多く、Subspecialty 重視のコースも、総合内科的なコンピテンシーを強化したいコースも提供できます。　いずれも主担当医として入院から退院まで経時的に治療と療養環境調整の実践を修得し、今後の社会のニーズに合致したジェネラルなマインドを持った内科専門医の養成を目指しています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名、日本内科学会総合内科専門医　13 名、 日本消化器病学会消化器専門医　6 名、日本消化器内視鏡学会専門医　4 名、 日本循環器学会循環器専門医　12 名、 日本糖尿病学会専門医　3 名、日本腎臓学会専門医　1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医　6 名、日本血液学会血液専門医　1 名、 日本神経学会神経内科専門医　3 名、日本救急医学会救急科専門医　5 名、 日本内分泌学会専門医　1 名、日本不整脈学会専門医　1 名　ほか
外来・入院 患者数	年間入院患者実数 5,829 名、1 日平均外来患者数 340.3 名、年間新外来患者数 4,919 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医制度教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設など

2）専門研修連携施設

1．神戸大学医学部附属病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ･医学部附属病院研修中は、医員として労務環境が保障されます. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ･女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 100 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年 2 回開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています.
指導責任者	三枝　淳　（腎臓・免疫内科学分野　免疫内科学部門） 【内科専攻医へのメッセージ】神戸大学医学部附属病院内科系診療科は，連携する関連病院と協力して，内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っていきます．医療安全を重視し，患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき，医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 100 名、 日本内科学会総合内科専門医 110 名、 日本消化器病学会消化器専門医 72 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 20 名、 日本循環器学会循環器専門医 35 名、 日本内分泌学会専門医 22 名、 日本糖尿病学会専門医 27 名、 日本腎臓病学会専門医 12 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名、 日本血液学会血液専門医 19 名、 日本神経学会神経内科専門医 22 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 17 名、 日本感染症学会専門医 5 名、 日本救急医学会救急科専門医 16 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 延べ数 12,482 名、実数 2,437 名（内科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者 延べ数 7,232 名、実数　586 名（内科のみの 1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができますが、大学病院での研修は短期間なので、 希望により研修科を選択いただきます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. 大学病院ならではの専門・最先端医療も是非経験いただきたいと考えています.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設 日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院 日本消化器病学会消化器病専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本血液学会血液専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会感染症専門医研修施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本神経学会神経内科専門医教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設

2. 愛仁会千船病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･千船病院常勤医師として，法人の規定に則り労務環境が保障されています. ･メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります. ･女性専攻医も安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･隣接地（徒歩約 1 分）に院内保育所があり，事前手続きにより利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログ ラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理するプログラム管理委員会と研修委員会，それをサポートする診療部支援室を設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回），専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（過去実績 5-8 回/年）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･特別連携施設（日高クリニック）の専門研修では，電話やメール，週 1 回程度の千船病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います. ･日本専門医機構による施設実地調査に，診療部支援室とプログラム管理委員会とで対応します.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，脳神経，呼吸器，感染症および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群が研修可能です. ・専門研修に必要な剖検（過去実績 5-13 件/年）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会および治験管理委員会を開催（2021 年度実績，倫理委員会 2 回（迅速審査除く），治験委員会 6 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2006 年度から 2020 年度実績，毎年 3 演題以上）をしています.
指導責任者	尾崎　正憲（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムの目指す内科医像は，総合内科的な力を有するサブスペシャリティ医，病院総合内科医,さらに地域医療の第一線で活躍するプライマリ・ケア医を育成することを目標としています．そのため 1 年目ではできるだけ幅広く各内科で研修を行い，2 年目以降にサブスペシャリティ研修を並行して行うことを基本にしていますが，各専攻医の希望を聞いて柔軟に研修を行えるよう配慮しています．また専攻医が早期に技術が習得できるよう，多くの症例の処置や手術が行えるよう配慮しています．さらに学会発表や論文作成の指導を懇切丁寧に行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本透析医学会専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 1 名 日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医 1 名 日本病院総合診療医学会認定医 3 名
外来・入院 患者数	外来患者 5,123 名（1 ヶ月平均）　入院患者 218 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例の多くを幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会連携施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医教育病院

3. 愛仁会明石医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 （申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します）
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間 4 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。 症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	中島　隆弘 【内科専攻医へのメッセージ】 明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています．専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です．2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモンディジーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました．外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています．症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本循環器学会専門医 7 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本消化器病学会専門医 12 名、日本消化器内視鏡学会専門 11 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 5 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名　ほか

外来・入院 患者数	外来患者 7,405 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 6,797 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本透析医学会専門医教育関連施設、 社団法人日本感染症学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、 ＩＭＰＥＬＬＡ補助循環用ポンプカテーテル実施施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、 日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、 一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設（呼吸器内科）など

4. 高槻赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･高槻赤十字病院嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するため、産業保険スタッフ（産業医・衛生管理者・臨床心理士）が中心となり、職員の休業から復職までの支援を行っております。 ･ハラスメント委員会が院内に整備、外部委託による相談窓口も設置しております。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所・病児保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 9 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を人事課に設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回，医療安全 2 回以上、感染対策 2 回以上）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（年間 3 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（公開呼吸器カンファレンス、、公開消化器消化器カンファレンス）を定期的に開催し、 専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に人事課が対応します。 ･特別連携施設（みどりが丘病院・多可赤十字病院）の専門研修では、必要に応じて連絡をとり研修指導を行います。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北　英夫（プログラム統括責任者・呼吸器科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 高槻赤十字病院は、大阪府北部に位置する北摂地域の中心的な急性期病院の一つです。subspecialty 各領域の研修とともに、中規模病院の特徴である各科の垣根の低い横断的な研修が可能で、総合力にも専門性にも優れた内科専門医の育成を目指します。救急患者もコロナの影響もありましたが、年間約 5,000 例受け入れており総合的な内科疾患初期対応の研修が行えるだけでなく、研修後半の志望科の Subspecialty の研修にも力をいれており、十分な専門的症例・検査・処置数があり充実した研修が可能です。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門医　7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本肝臓病学会専門医　5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本神経学会神経内科専門医　1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者　4,752 名　　（内科系 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 4,383 名　　（内科系 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。稀な疾患も、大学病院などと連携しできる限り体験できる体制にしています。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会専門研修施設 日本血液学会認定血液研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

5. 奈良県総合医療センター

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・有期専門職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に 1 度メンタルヘルス相談会が開催されています。 ・ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：前田副院長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医支援室があります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会（ICT 勉強会）を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全講習会 12 回，感染対策講習会（ICT 勉強会）12 回,呼吸サポートワーキング勉強会 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座：12 回開催．集学的がん治療勉強会：3 回開催,緩和ケア勉強会 2 回）を定期的に開催し，専攻医 に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します。
認定基準 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 9 体 2023 年度 9 体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体，2018 年度実績 15 体）を行っています.
認定基準 4) 学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 22 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 11 回） しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 22 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 11 回） しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医　19 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 20 名，ほか

外来・入院患者数	外来患者 1,305 名（1 日平均）　入院患者 428 名（1 日平均）　※2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

6. 神戸医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･神戸医療センター期間医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課担当）があります. ･ハラスメント委員会が神戸医療センターに整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室（予備の当直室を使用可、シャワーブース有），当直室（シャワーブース有）が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医は 4 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科系診療部長：総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修部を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 14 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（須磨区臨床談話会；2024 年度実績 3 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年 1 回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. ･特別連携施設（名谷病院）の専門研修では，電話や週 1 回の神戸医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 2 体、2023 年度 4 体、2022 年度 6 体、2021 年度 5 体、2020 年度 12 体、2019 年度実績 13 体，2018 年度実績 10 体，2017 年度実績 12 体，2016 年度実績 16 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 7 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 3 演題，2017 年度実績 2 演題，2018 年度実績 7 演題，2019 年度実績 6 演題、2020 年度実績 7 演題､2021 年度実績 5 演題､2022 年度実績 5 演題､2023 年度実績 6 演題、2024 年度実績 3 演題）をしています.

指導責任者	三輪陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 　神戸医療センターは，兵庫県神戸市須磨区医療圏の中心的な急性期病院であり，連携施設として神戸大学医学部附属病院，国立病院機構兵庫中央病院，兵庫県立がんセンター，兵庫県立はりま姫路総合医療センター，神戸市立医療センター西市民病院，神戸市立西神戸医療センター，社会医療法人愛仁会明石医療センター，社会医療法人愛仁会高槻病院、特別連携施設として名谷病院と施設群を形成して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します. 当センターは、総合病院としての機能を果たしながら、昭和 60 年から 38 年の長きにわたり、厚生省・臨床研修指定病院として多くの研修医を育ててきた実績のある病院であり、内科学会教育病院としての資格を有しています。Common disease から珍しい病気まで多くの症例を経験でき、最新の専門的医療・実技を習得してもらえる体制をとっています。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成に努めます.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本循環器学会専門医 7 名，日本呼吸器学会指導医 1 名 日本呼吸器学会専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 日本消化器病学会指導医 2 名，日本消化器病学会専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 2 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 9,092.8（1 ヶ月平均）、入院患者 233.5 名／日　(2024 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設認定施設 など

7. 甲南医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi)があります。 ･甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（院内　心の相談窓口・公認心理師/臨床心理士）があります。 ･ハラスメント委員会が（職員暴言・暴力担当窓口）が甲南医療センター内（総務部・安全衛生課）に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 28 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に開催し、医療倫理講習会（2024 年度実績 1 回）、医療安全講習会（2024 年度実績 3 回）、感染対策講習会（2024 年度実績 3 回）を開催し専攻医にも受講を義務付けます。 ･CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 7 回）、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、教育研修センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしており、関連学会での発表も定期的に行っています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	小別所　博　(脳神経内科) 【内科専攻医へのメッセージ】 甲南病院は 1934 年に眺望のすばらしい阪急御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。建物の老朽化もあり 2017 年より建て替え工事がはじまり、1 期工事の終了した 2019 年 10 月より六甲アイランド病院と統合され、甲南医療センターとして新しい一歩を踏み出しました。2022 年春には 2 期工事が完工しグランドオープンを迎えました。中でも救急医療はこれまで以上に力を入れ、年間約 7000 台（1 日平均 19 台）の救急車を受け入れています。2023 年 4 月より神戸大学から内科的思考に優れた救急専門医を副部長として迎え入れ常勤医 3 名となり、指導体制もこれまで以上に充実しています。ハード面でもソフト面でも新しくなった当院で是非いっしょに内科専門研修をスタートさせましょう。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名 日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本呼吸器会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	（病院全体） 外来患者 5,911 名（実数/1 ヶ月平均） 入院患者 1,083 名（実数/1 ヶ月平均） （内科全体） 外来患者 2,150 名（実数/1 ヶ月平均） 入院患者　485 名（実数/1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会肥満症専門病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　など

8. 宝塚市立病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育関連病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（経営統括部職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が宝塚市役所に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（専門研修プログラム責任者宮島部長、副専門研修プログラム責任者田中弘教）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を 義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科症例カンファレンス等）を定期的 に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます（年 1 回院内で開催）。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）に ついて研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	責任者名(所属)　宮島副院長（循環器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 宝塚市立病院は兵庫県二次医療圏である北阪神地区の中心的な急性期病院であり、 北阪神地区および近畿医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じ適切な処置のできる、兵庫県全域を支える内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 19 名 内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本肝臓病学会専門医 3 名

	日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本血液病学会専門医 3 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者　7,425.42 名（内科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者　　470.92 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応する地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会指導医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本感染症学会連携研修施設　など

9. 市立加西病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境（wi-Fi）があります。 ･身分は１年目より市立加西病院職員で、地方公務員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（労働衛生委員会・総務課総務係）があります。 ･ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に２１時まで対応できる院内保育所（週１回 24 時間対応）があり利用可能です。 ・宿舎は単身は市内マンションの借り上げ、家族は各種世帯宿舎または市内マンションの借り上げです。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 5 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し、専攻医に受講義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（加西市医師会研修会、山陽循環器病談話会、北播磨循環器カンファレンス、きたはりまハートクラブ、加西地区消化器疾患勉強会、播磨消化器疾患勉強会、東播磨消化器疾患懇話会、北播磨肝疾患フォーラム、東播地区肝疾患フォーラム、加古川肝疾患懇話会、糖尿病ｼﾞｬﾝﾌﾟｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ、など。）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（最少でも 56 疾患群以上）について症例が経験できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています。 ･治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。 ･学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	七星　雅一 【内科専攻医へのメッセージ】 市立加西病院は、内科専門研修の基幹病院でもあります。（2018 年度 1 名、2020 年度 2 名、2021 年度 2 名採用）当院は伝統的に教育研修に熱心な病院です。指導医のみならず職員が一体となって専攻医の研修に協力します。 研修は専攻医 1 年次は、内科全般の研修を、診療科を区切らず 1 年単位で研修を行います。このため症例経験の連続性、診療体制への馴染み、常に幅広い内科学の経験ができる利点があります。 その結果、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を行います。 また、はりま姫路総合医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医 5 名 ・日本内科学会総合内科専門医 5 名 ・日本消化器病学会消化器専門医 1 名 ・日本循環器学会循環器専門医 3 名 ・日本糖尿病学会専門医 1 名 ・日本心血管インターベンション治療学会認定医 1 名 ・日本消化器内視鏡学会専門医 1 名 ほか

外来・入院 患者数	外来患者 290 名（1 日平均）　入院患者 146 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、カリキュラムにある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する機会が豊富です。
経験できる 地域医療・診療連携	地域中核病院として、市内および周辺地域の診療所・病院との病診連携、病病連携を研修できます。また、地域多機能病院として、急性期医療だけでなく、回復期や、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会　認定医制度教育関連病院 ・日本ペインクリニック学会　指定研修施設 ・日本循環器学会　循環器専門医研修施設 ・日本消化器病学会　専門医修練施設 ・日本臨床細胞学会施設 ・日本がん治療認定医機構　認定研修施設 ・日本消化器内視鏡学会　指導医施設 ・日本消化器病学会　専門医制度認定施設 ・日本医学放射線学会　放射線科専門医修練協力機関 など

10．淀川キリスト教病院

認定基準 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります．貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます. ･淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります. ･ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり,利用可能です．また院内で病児保育の利用も可能です.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 8 回）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ･プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回：受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 8 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，資料作成室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています. ･治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 11 演題）をしています.
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか. 内科の基礎をしっかり学びたい方もいれば，早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう．将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です．淀川キリスト教病院内科プログラムでは，一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します. 当院は，全人医療を理念とし，幅広い診療科と高度な医療機器を備え，大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です．年間 7000 件前後の救急搬送実績があります．11 科からなる内科には，将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています．これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること，さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ，切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です. また，地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています. プログラムでは，内科医に不可欠な知識や技能，態度，問題解決方法に加え，将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています．質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名，日本内科学会総合内科専門医 34 名， 日本消化器病学会消化器専門医 13 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本内分泌学会専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会認定血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 6 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，がん薬物療法専門医 2 名， 日本感染症学会 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 14 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10673 名（2024 年度平均延数／月） 新入院患者 552 名（2024 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて．研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域．70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です．
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

11. 神戸赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度教育病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心療内科）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、プログラム管理委員会委員長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（HAT 呼吸器疾患検討会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（すくなくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研修必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会 発表（2017 年実績 15 演題）をしています。
指導責任者	土井　智文　副院長兼内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸赤十字病院は兵庫県神戸市医療圏の中心的な急性期病院であり、西播医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院まで啓示的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	内科学会総合内科専門医１名、日本消化器病学会消化器専門医４名、 本循環器学会循環器専門医６名、日本呼吸器学会呼吸器専門医１名、 日本消化器内視鏡学会専門医５名、日本神経学会神経内科専門医２名、 日本糖尿病学会専門医１名、日本臨床神経生理学会専門医１名、 日本脳卒中学会専門医１名、日本認知症学会専門医１名、 日本救急医学会救急科専門医２名
外来・入院 患者数	外来患者　510.2 名（前年度１日平均患者数） 入院患者　249.1 名（前年度１日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期疾患だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、 日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、 日本アレルギー学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、 日本神経学会認定准教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、 日本心療内科学会専門医研修施設、日本心身医学会認定医制度研修診療施設、 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本リウマチ学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

12. 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 46 名在籍しています（下記） ・内科専門研修連携施設研修管理委員会にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回、2024 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 7 体、2024 年度 2 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題、2024 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	大内　佐智子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます．救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。 すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 9 名、 日本内科学会認定内科医 47 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名、 日本循環器学会循環器専門医 21 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、 日本消化器病学会専門医 9 名・指導医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名・指導医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本腎臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、 日本透析医学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名・指導医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本緩和医療学会専門医 1 名・指導医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	内科系診療科外来患者　11,283 名(2024 年度 1 ヶ月平均)、 内科系診療科入院患者 8,748 名（2024 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、 日本核医学学会専門医教育病院、心エコー図専門医制度研修施設、 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設、 日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、 ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、 両心室ペースメーカ移植術認定施設、 両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、 経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設、 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、 MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、 日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、 日本甲状腺学会認定専門医施設、日本消化器病学会認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本炎症性腸疾患学会指導施設、 日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、 日本血液学会専門研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、 日本緩和医療学会基幹施設、ほか

13. 北播磨総合医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・北播磨総合医療センター非常勤医師（常勤の嘱託職員）として労務環境が保障されています. ・ハラスメント防止委員会が設置されており，各種ハラスメントに対処しています. ・メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり，院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所があり、平日 8 時から 18 時は病児保育にも対応しています. ・宿舎は，病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで，単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています. （下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（副院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（北播磨総合内科セミナー，北播磨消化器循環器連携懇話会，北播磨病診連携講演会，北播磨 Vascular Meeting など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年度 1 回開催予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 6 回,2024 年度実績 9 回）しています. ・日本内科学会地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表をしています. ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています.
指導責任者	安友佳朗 【内科専攻医へのメッセージ】 北播磨総合医療センターは，「患者にとって医療機能が充実し，安心して医療を受けられること」また「医師，技師，看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く，やりがいがあり，働き続けられる環境であること」など，「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して 2013 年 10 月に開院した病院です. 教育熱心な指導医のもと内科全般の主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名、・日本内科学会総合内科専門医 29 名、 日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本循環器学会認定循環器専門医 12 名、 日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、 日本感染症学会感染症専門医 2 名　　ほか

外来・入院 患者数	外来患者 1,039.9 名（1 日平均）入院患者 317.3 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定施設、 日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、 日本内分泌学会認定教育施設、日本認知症学会専門医制度教育施設 日本血液学会専門研修認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、 経皮的僧弁接合不全修復システム実施施設、 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設、 日本脈管学会研修指定施設、日本感染症学会研修施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本胆道学会指導施設、日本炎症性腸疾患学会専門医制度 IBD 指導施設、 日本膵臓学会認定指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本臨床神経生理学会認定施設、 日本脳卒中学会研修教育病院、日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設、 日本血栓止血学会認定医制度認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設、 日本リハビリテーション医学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、 日本腎臓学会認定教育施設、日本アフェレシス学会認定施設、 日本リウマチ学会リウマチ教育施設、日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関、 日本核医学会専門医教育病院、日本放射線腫瘍学会認定施設、 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設、画像診断管理認証施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、病院総合医育成プログラム認定施設、 総合輸血機能評価認定制度（I＆A）認証施設、日本脳ドック学会施設認定、 日本緩和医療学会認定研修施設、日本禁煙学会教育施設

14．淡路医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修・研究センター2019 年度に設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（淡路循環器病研究会，淡路病診連携カンファレンス，淡路医師会勉強会，消化器病症例検討会など；2022 年度実績 6 回，2023 年度実績 11 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 11 体，2023 年度実績 7 体）を行っています.
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 6 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 6 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 2 演題,2022 年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	奥田　正則 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立淡路医療センターは，兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であり，淡路医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．主担当医として，入院から退院後〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて，社会的背景や療養環境調整も含めた全人的医療を実践できる内科専門医が到達目標です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名， 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 9 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本老年医学会老年病専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 294 名（内科系：1 日平均） 入院患者 159 名（内科系：1 日平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会連携施設 日本超音波医学会研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本神経学会準教育施設 日本老年医学会認定施設　ほか

15. 兵庫県立がんセンター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が、兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。（休憩室は男女共用） ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。利用時間は 7:30～18:45（平日のみ）です。 ・医師公舎があります。（単身用のみ）
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 （2024 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 6 回、感染対策 3 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回(ただし、2 回とも外科症例)）し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。 ・地域参加型のカンファレンス（学術講演会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、受講のための時間を確保します。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、内分泌、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	里内　美弥子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院及びゲノム医療拠点病院であり、連携施設としてがんの基礎的、専門的医療を研修できます。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを受け持ち、診断・治療の流れを通じて、患者の社会的背景・療養環境調整をも包括的医療を実践できる内科専門を目指していただきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、 日本消化器病学会消化器専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 がん薬物療法専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名
外来・入院 患者数	内科系外来患者　227.3 名（1 日平均）　　内科系入院患者　112.9 名（1 日平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 7 領域 23 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、高齢者にも対応したがん患者の診断、治療、緩和ケアなどを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本血液学会血液研修施設、日本輸血・細胞治療学会指定施設、 日本緩和医療学会認定施設、日本臨床細胞学会教育研修施設、 日本臨床検査医学会認定施設、日本医学放射線学会総合修練機関、 日本放射線腫瘍学会認定施設、日本核医学学会専門医教育施設、 日本 IVR 学会専門医修練施設など

3.特別連携施設

1.愛仁会しんあいクリニック

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・愛仁会しんあいクリニックの非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部職員担当）があります。 ・労働安全衛生委員会が病院内に整備され、ハラスメント防止等職員の勤務環境改善に取り組んで います。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会・基幹病院である愛仁会高槻病院で定期的に開催される講習会への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC：愛仁会高槻病院（基幹施設）で定期的に開催されるＣＰＣ（2022 年度実績 9 回）の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス：基幹病院である高槻病院での受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	家永　徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 愛仁会しんあいクリニックは地域に密着したかかりつけ医として在宅診療部門にも力を入れています。高齢患者に対する医療・介護の切れ目のない医療を研修できます。主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	
外来・入院 患者数	外来患者は 1,300 名程度（内科系 1 ヶ月平均）。 2021 年 9 月末でしんあい病院閉院、2021 年 10 月より無床の愛仁会しんあいクリニックへ変更しました。
経験できる疾患群	総合内科などの疾患が経験できます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	経験できる地域医療・診療連携 超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診連携、医療と介護の連携などが経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

2. 井上病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（経営管理科職員担当および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会が（職員暴言・暴力担当窓口）が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えま　す。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	当院では、主病名や併存症を含め、内科領域 13 分野の専門研修に対応可能な症例を幅広く診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会などに年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。また、希望者に対しては英文症例報告の執筆の支援を行っています。
指導責任者	濱田 治 【内科専攻医へのメッセージ】 腎臓病専門病院として昭和 50 年に設立以来、腎臓・透析医療の専門的治療の追求と地域医療への貢献を使命として取り組んできました。患者それぞれの病状にきめ細かく対応し、各種腎疾患の精査加療、保存期慢性腎臓病・糖尿病性腎臓病治療、透析合併症の管理、介護の必要な透析患者の対応、さらに腎移植後のフォローアップに至るまで、腎不全に対する包括的な診療を実践しています。透析治療は血液透析と腹膜透析の両方を提供しており、現在透析患者約 700 名、うち腹膜透析患者約 45 名の治療をおこなっています。また、腎不全合併症に対しては血管外科、泌尿器科、眼科、整形外科、放射線科などの各科専門医と連携して対応しています。糖尿病においては日本糖尿病学会認定教育施設であり、糖尿病専門医指導医も多く在籍しており、質の高い診療と教育が可能です。 2024 年 4 月に総合内科を新設しました。2017 年度から同法人の高槻病院で米国内科専門医のもと米国式研修医教育が開始されました。同法人の高槻病院総合内科指導医が当院へ異動にて着任し、現在指導医 1 名と他院からの専攻医、診療看護師（NP）2 名でチーム診療を行っています。 超高齢社会を迎え、複数の基礎疾患を抱えた高齢患者が増加する中、各専門領域で医療の進化が加速し、新しい知見や診療ガイドラインの更新も続いています。こうした中、複数の疾患を抱える患者に対し、どの診療科の医師が診療を担うかが課題となっています。総合内科はこのような患者の各専門科の診療を「横に紡ぐ」役割を果たすだけでなく、高齢者が急性疾患を発病して救急急性期基幹病院で治療を行った後、自宅や施設への「橋渡し」も行っています。 当院はこれまで、クリニックや訪問看護ステーション、介護施設と密接に連携し、地域全体で高齢者支援ネットワークを築いてきました。この取り組みを大切にしつつ、大学病院・医療センター・急性期基幹病院と協力し、地域の在宅医療から急性期医療に至るまでの医療提供体制における「ハブ」としての役割を強化しています。 上記のように腎疾患に特化した専門的な研修を受けられるだけでなく、急性期から亜急性期までの幅広い内科疾患への対応を学ぶことができます。各診療科には専門医や指導医の資格を持つ常勤医が多数在籍しており、緊急入院や急変対応などの緊急治療も含め、実践的な研修が可能です。 また、海外で有用性が報告されている、総合内科と整形外科の協働診療にも取り組んでいます。具体的には、大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折に対して整形外科と連携して診療を行い、エビデンスに基づいた周術期管理や協働診療の実践を学ぶことが可能です。 当院での研修を通じ、幅広い診療能力を身につけた、地域医療に貢献できる内科医の育成に取り組んでいます。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名（うち日本内科学会総合内科専門医 9 名）、 日本腎臓学会認定専門医 8 名（うち、指導医 3 名）、 日本糖尿病学会専門医 6 名（うち、研修指導医 4 名）、 日本透析医学会透析専門医 6 名（うち、指導医 3 名）
外来・入院 患者数	内科系外来延患者 8,554 名（1 ヶ月平均） うち、透析患者 6,824 名（1 ヶ月平均） 内科系入院延患者 2,054 名（1 ヶ月平均） ＜実入院患者（全診療科）130 名（1 ヶ月平均）＞
経験できる疾患群	腎疾患を中心に多くの症例を幅広く経験する事ができます。 高齢の救急急性期治療後から亜急性期の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本整形外科学会認定医制度による研修施設、 日本透析医学会専門医制度に基づく認定施設、日本腎臓学会研修施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本外科学会外科専門医制度関連施設、 日本脈管学会認定研修関連施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、 日本泌尿器科学会関連教育施設、心臓血管外科専門医認定修練施設（関連施設）、 日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本腹膜透析医学会研修施設

愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2025 年 4 月現在）

愛仁会高槻病院

船田　泰弘　（プログラム統括責任者，院長）
吉田　健一　（糖尿病内分泌内科責任者）
澤井　寛明　（消化器内科責任者）
中島　健爾　（循環器内科責任者）
松下　達生　（脳神経内科責任者）
高橋　利和　（腎臓内科責任者）
筒泉　貴彦　（総合内科責任者）
山城　荒平　（不整脈内科責任者）
髙岡　秀幸　（循環器内科，部長）
杉本　彩　（事務局代表，臨床研修センター事務担当）

連携施設担当委員

神戸大学医学部附属病院	三枝　淳
愛仁会千船病院	中島　進介
愛仁会明石医療センター	米倉　由利子
高槻赤十字病院	北　英夫
奈良県総合医療センター	前田　光一
神戸医療センター	三輪　陽一
甲南医療センター	中田　恭介
宝塚市立病院	宮島　透
市立加西病院	七星　雅一
淀川キリスト教病院	紙森　隆雄
神戸赤十字病院	川島　邦博
はりま姫路総合医療センター	大内　佐智子
北播磨総合医療センター	安友　佳朗
淡路医療センター	小谷　義一
兵庫県立がんセンター	里内　美弥子
愛仁会しんあいクリニック	家永　徹也
井上病院	濵田　治

オブザーバー
内科専攻医代表 1　　内科専攻医代表 2